

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成23年9月7日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690300068号
法人名	株式会社 セカンドライフ
事業所名	グループホーム西南
所在地	鹿児島県鹿屋市池園町2297-7 (電話) 0994-34-1008
自己評価作成日	平成23年5月22日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成23年6月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園が広がり、自然豊かな環境の中に当ホームはあります。1棟が開設4年目、2棟が3年目になります。運営推進会、保育園・小中学校との交流、ご家族の協力等により地域の方々に認識されてきていると思います。  
当ホームは、「笑顔の絶えない毎日を。貴方と、家族と、私達と、地域とともに。」を理念に掲げ、理念に沿ったサービス提供を日々目指しています。理想とするホームには、まだまだですが、スタッフ一人ひとりが考え、模索し、少しでもそれに近づこうと努力をしている現状です。  
地域密着型サービスの意味を踏まえ、地域の中に根ざして行きたいです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿屋市の中心より、少し離れたのどかな田園地帯に位置し、リビングからは広々とした芋畑が見渡せる。  
ホームは拘束のない自由な生活となじみの関係継続、自立に向けた支援などに重点を置いて取り組んでいる。日中は施設などせずに職員間の連携と見守りで自由に出入りをして、喫煙や日光浴を楽しみ自然体でのびのびと生活している。また、利用者の希望によりホーム玄関わきに自動販売機も設置されており、利用者の楽しみにもなっている。誕生日のケーキ作りや外食のバイキング、利用者の大好物のラーメンを食べに出かけたり、ときには宅配ラーメンを頼んだり大変好評である。また、できることは本人にしてみらうことが、結果的に排せつ・入浴など自立に結び付いている利用者も複数名いる。  
健康管理については、訪問看護事業所と医療連携体制を図り、定期的な医師と看護師の訪問や急変時の対応など、家族・職員の安心に繋がっている。  
職員の資格取得の支援も費用の助成やスケジュールの調整など臨機応変に対応しており、働きながら資格を取得した職員も多い。現在、ほとんどの職員が介護福祉士・社会福祉士・ケアマネなどの資格を取得している。常に利用者が笑顔で生活してもらえることを目標に、職員は理念を共有して実践につなげているグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者に対し、自分達はどうありたいか？どうあるべきか？、又、どう支援していきたいかを考え現在の理念をかかげる。職員会議等にて繰り返し考え、実践している。	理念は、「笑顔のたえない毎日を貴方と家族と私たちと地域とともに」という地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成している。職員は理念を念頭において日々取り組んでいる。ホーム便り、パンフレットにも明記している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園との交流会、中学校の職場体験受け入れ、消防団の訓練参加等交流の機会を設けているが、日常的なことと言えるのは、散歩の際の挨拶、立ち話程度である。	自治会に加入しており、グランドゴルフへの招待や地域の文化祭に作品を出展するなど地域との交流に努めている。また、小学校の運動会では利用者も競技に参加したり、保育園児が太鼓を披露してくれるなど子ども達との交流もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	グループホーム協議会のセミナー等の案内、参加を運営推進会を通じて呼びかけている。地域の方が、民生委員、町内会長を通じ、入居等の相談もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の現状報告、監査結果等報告。ホームが抱えている問題点や改善事項に関し、良きアドバイスを頂いている。	町内会長、副会長、民生委員、家族代表、行政等の参加で2ヵ月に1回定期的に開催している。地域の情報やホームの行事報告、災害対策、感染症についての話し合いなどが行われている。	

鹿児島県 グループホーム西南 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課・包括支援センター、運営推進会議に出席していただき、相談、助言を頂いている。行政の主催する研修会等積極的に参加している。	日頃より連携を図り、協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム自体の拘束廃止委員会規定を作成し、拘束における弊害等定期的に勉強会のテーマに上げている。我が親、自分自身におきかえ日々のケアを行っている。開設してから拘束を実施した例はない。	ホームの方針として拘束のないケアに取り組んでおり、日中は施錠などせずに職員間の連携で安全で自由な生活を楽しめるように支援している。また、定期的に勉強会を行って職員の意識向上にも努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても定期的に勉強会のテーマに上げ、繰り返しスタッフへ周知、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しては、まだまだ勉強不足であり、今後、スタッフと共に研修の参加・勉強をして行きたい。		

鹿児島県 グループホーム西南 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の相談、入居時と、時間を掛け説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から、利用者・家族が意見、不満等なんでも言える関係作りに努めている。運営推進会議、家族会、玄関にはご意見箱を設置し環境づくりに努めている。出された意見は、職員会議等にてスタッフに周知し反映させている。	年2回の家族会時、面会時や電話連絡の際に家族から意見、要望を聞き出すようにしている。また、各居室に面会簿を置いて気づいたことなど気軽に書いてもらえるように工夫している。出された意見・要望については職員間で話し合っ、ときには、地域の方々の協力をもって可能な限り対処している。利用者からは日常の会話の中で意見、要望を引き出すようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会、毎日のミーティング、業務の中で意見・要望等聞いている。又、スタッフから何でも言ってもらえる職場環境作りに努めている。	毎朝の申し送りで職員は情報の共有を徹底している。代表者・管理者は職員の意見を業務に反映させている。また、職員育成に力を入れて、働きながらレベルアップに向けた資格取得の支援も行っている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援や定期的な面接等を行い、スタッフの意見や悩み等を聞いている。		

鹿児島県 グループホーム西南 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修内容により、スタッフの力量に合わせ積極的に参加してもらっている。又、日頃から気付いたことはその場で指摘するようにしており、やかましく思われているのでは？</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>年に数回、他のグループホームと合同の研修会を開催している。GH協議会にも加入しており同業者との交流も多い。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に本人・家族に面会。話を伺っている。できるだけ環境の変化によるダメージを軽減したいと考える。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の相談、入居契約時に十分に思いを伺っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>要望、話しを十分伺い、アドバイスができるように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>スタッフと利用者、利用者と利用者ではなく、一つの家族として接することが理想であり、実現できるよう努力している。</p>		

鹿児島県 グループホーム西南 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へは入居前の面談にて、家族の支え、協力等必要性を話している。帰宅願望のあるとき、受診、衣替えその他色々、家族とはもちつもたれらの関係である。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所への支援は、数名のみで全員への支援はできていない。	本人の希望で理髪店や自宅訪問、墓参り、昔なじみの場所などへの外出支援を行って、なじみの人や場との関係継続の支援を行っている。また、友人知人が訪ねやすいように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が居室へ「お茶やっど」と呼びに行かれたり、ソファにて楽しく話をされている。しかし、好き嫌いがあるようで、スタッフは人間関係を考え気配りを行っている日常である。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もホームとしてできる事、協力できることは率先していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の希望、要望等日常の中で聞きだしている。買い物や散髪、外出等色々な希望がある。性格的に要望等言われない方もおられ家族へ聞いたりしている状況である。	何をするにも本人の意思確認をしてから行うように心がけている。会話の中から思いや意向を把握し、困難な場合は表情、言動、家族や関係者からの情報などから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴、性格、趣味嗜好等家族からの情報と、日々接する中で一人ひとりを把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人ができる事、できない事、必要としていることを把握し、可能性を考え、その人らしく過ごせるよう模索している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会等にて検討している。家族へ生活状況を説明し要望を伺い介護計画を作成している。	本人のもてる力を活かした役割分担をしたり、本人の希望で嗜好品として喫煙を計画に取り入れている利用者もいる。また、これまでの生活習慣の維持として日記・読書が続けられるように支援している利用者もいる。	

鹿児島県 グループホーム西南 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤・夜間と、個別に記録をしている。スタッフは他の記録も読むようにしており、情報を共有し日々のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、散髪 その他、行政関係の申請、手続き等 家族のできないこと等支援している。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望によりかかりつけ医を決め、Drに継続的に医学的管理を行ってもらっている。又、かかりつけ医以外にも協力医療機関にて対応していただく体制がある。	訪問看護事業所との契約で24時間オンコールで医療連携体制がとられている。定期的に看護師と医師の訪問があり、利用者の健康管理が行われている。また、本人、家族の希望するかかりつけ医の受診同行を行って連携を図っている。受診結果は随時家族に報告している。	

鹿児島県 グループホーム西南 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約。20年11月より週1にて訪問看護、月1回Dr訪問診療の体制である。毎回、同じ看護師が来てくださり、スタッフ・利用者共になじみの関係が形成されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者と蜜に連携を図り、本人、家族をサポートしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの「重度化における対応(看取り)の指針」にて、本人、家族の意向、かかりつけ医、スタッフの意見を考慮し、方針を決めていきたい。	重度化や終末期に向けたホームの指針を作成し、入居時にホームの方針を説明している。また、利用者の身体状況に応じて主治医を交えて家族と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故に対してマニュアルが掲げてあり、消防署が主催する救急救命士の講習等毎年参加している。		

鹿児島県 グループホーム西南 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署届出の避難訓練 年2回。そのうち消防団参加の訓練を年1回実施しており、又、職員会等にて繰り返し災害については話をしている。協力体制は、運営推進会議にて地元の町内会長等に協力をお願いをしている。</p>	<p>定期的に避難訓練を行っている。スプリンクラーも設置されており、地域住民との協力体制は運営推進会議を通じて話し合われている。緊急時の協力要請の方法の一つとして町内の有線放送の活用も話し合われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報に関しては、契約の際家族と契約書を交わし個人情報使用の範囲を決めている。誇りやプライバシーを損ねる言葉使い、対応については職員会等にて繰り返しスタッフに話をしている。	個々に応じた声かけや人生の先輩として敬う気持ちを忘れないよう配慮しながら対応している。職員会議等で機会を捉えては話をすることもあり、職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から、自己決定を促すような支援を行っている。利用者から何でも言ってもらえるよう人間関係・信頼関係を築けるようスタッフに繰り返し話しを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースにあわせ支援しているが、スタッフの都合にて希望に添えないことある。一人ひとりの生活リズム、ペースを大切に、希望に添えるように努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	スタッフが髪を切っており利用者、家族も喜ばれている。化粧については、普段はほとんどされていないが、誕生会等の時は声をかけ普段とちよつと違った容姿である。喜ばれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日毎食ではないが、皆で食材の切り込み、揚げ物、炒め物等楽しく行っている。茶碗を洗ってもらったり配膳等できる人にはしていただいている。	家庭菜園、誕生会のケーキ作り、お茶碗洗い、片づけ、調理下ごしらえなど個々の力量に応じて職員と共に行っている。ラーメン好きな利用者が多く、宅配ラーメンを頼んだり、2ヵ月に1回は全員で出かけられる外食(ラーメン・バイキング等)なども楽しんでいる。	

鹿児島県 グループホーム西南 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼は魚、夜は肉といったように、バランスを考え食事の提供を行っている。食事量の多い人少ない人それぞれ個人の要望に応じている。本人の嗜好、疾病、状態に合わせた支援を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに関しては、係りを決め実施し、チェック表にて忘れの無いようにしている。又、ご家族の希望にて、訪問歯科を利用しており、スタッフも、Drより口腔内の状態や口腔ケアのやり方等指導を頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターン・量等把握に努め、少しでもトイレにて排泄できるよう支援している。	自立している利用者も数名いるが、夜間帯はおむつ使用の利用者もいる。ホームの方針として日中は全員、職員の声かけ誘導でトイレでの排せつを支援している。入居してからトイレでの排せつが可能になった利用者もあり、職員の喜びと励みにもなっている。また、尿・便の回数を記録して利用者の健康管理も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日チェック、ケース記録とバイタルチェック表に記録している。便秘の要因・影響を理解し日頃から、水分、食物には注意し工夫をしている。運動には、散歩・体操を日常の中で取り入れている。		

鹿児島県 グループホーム西南 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日が入浴日であり、入浴したい人は毎日でも入浴できるようにしている。時間に関しては、午後3時すぎからの入浴時間であり、一人ひとりの希望に沿ってのものではない。	毎日入浴している利用者も数名おり、時間帯も夕方近くの入浴の支援を行っている。また、自立している利用者には職員の見守りで安全な入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	うとうとされている方には昼寝を勧めたり、ソファ等にて眠っている方にはさりげなく毛布をかけたり気配りに努めている。夜も皆様、眠たい時に部屋に帰り休んでおり消灯時間等は設けていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の説明・内容についてはケース記録に綴じておりスタッフがいつでも見られるようにしている。薬剤の変更時には、申し送りノート、ミーティング等にてその都度説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、干し、行事(そば打ち、餅つき)、食事の準備等、できることにて自分の役割を感じてもらえるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、日光浴、外出等支援している。	外での日光浴が好きな利用者は職員の見守りで自由に日光浴を楽しんでいる。また、2ヵ月に1回は外食に出かけられるようにしており、利用者の楽しみになっている。花見やミカン狩り、ホテル狩りなど季節を感じることもできるように外出支援している。また、個々の希望により、海や自宅周辺のドライブ、洋服やメガネなどの買い物にも出かけている。	

鹿児島県 グループホーム西南 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>数人、少しであるが自分でお金を持ち管理している。又、数人は事務所に預けており、買い物、ほしいもの等買ってきてほしいと頼まれている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人から「○○に電話をかけつらい」との要望があれば、電話をかけている状況。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を感じていただくよう、季節ごとに貼り絵等工夫をしている。</p>	<p>共用空間は広くテーブルとソファのコーナーがある。リビングから眺められる広大な芋畑の風景は見ているだけで癒され、季節を感じることができる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テラスやリビング・ローカにソファや椅子を置きゆっくり過ごせる空間になっていると思う。</p>		

鹿児島県 グループホーム西南 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に家族に、使い慣れた物品について説明をしている。数人の人は椅子等持ち込んでおられる。</p>	<p>テレビ、椅子、ぬいぐるみ、飾り物などが持ち込まれ居心地良く過ごせる居室である。読書好きな利用者の居室には本がたくさん持ち込まれている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ローカ、トイレ、居室入り口等手すりを設置し、自立支援、危険防止等工夫はしてあるが、一人ひとりに合わせたものではない。</p>	/	/

**V アウトカム項目**

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム西南 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム西南 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない